中学校国語科

国語科授業づくりのポイント

中学校学習指導要領（平成20年３月）が今年度より全面実施となりました。解説国語編では，「内容の構成の改善」「学習過程の明確化」「言語活動の充実」「伝統的な言語文化に関する指導の重視」などの内容が，改訂の要点として挙げられています。これらは，中学校国語科の授業づくりの根幹にもかかわるもので，多くの実践上の課題が想定されます。

そこで，中学校国語科の授業づくりにかかわって大切にしたい内容をポイントとして次に示します。

ポイント１　身に付けさせたい言語能力を明確にした指導

新学習指導要領では，これまで第２学年及び第３学年でまとめて示されていた目標と内容が学年ごとに示されました。また，指導事項を言語活動例を通して指導することを一層重視するため，言語活動例が領域ごとに位置づけられました。

各学年の内容の指導に当たっては，(1)身に付けさせたい言語能力（指導事項）を明らかにし，(2)それにふさわしい学習活動（言語活動）を確定し，(3)教材・題材を決定する，という基本的な考え方を踏まえて授業づくりを行う必要があります。つまり，授業で取り上げる言語活動を通して，どの指導事項を指導するのかを明確にし，指導事項と言語活動を密接に関連させた授業づくりを行うことが基本となります。ここで取り上げる言語活動は，生徒の実態に応じてより具体化し，系統的に指導することが大切です。

授業づくりの基本的な考え方

(1)身に付けさせたい言語能力
↓ 〈指導事項〉
(2)それにふさわしい学習活動
↓ 〈言語活動〉
(3)教材・題材

ポイント2　３年間を見通した指導計画の作成

学習指導要領に示された指導事項を確実に身に付けさせるためには，生徒の言語能力が螺旋的に高まるよう前後の学年，および小学校の指導内容も考慮した年間計画を立てることが必要です。また，学習指導要領の内容を見ると，例えば，「書くこと」では，「題材設定や取材」「交流」に関する指導事項が新設されるなど，学習活動が明確になるように構成されています。これは，生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりすることと深くかかわります。このような観点にもとづき，指導事項と取り上げる言語活動を明確に位置づけた年間指導計画を作成することが大切です。

国語科年間指導計画　作成例

				月	4月				5月				
				No.	1	2	3	4	5	6	7		
第1学年				単元名（教材・題材）	出身小学校の紹介をしよう	春の詩を味わう	漢字と仮名の関係	漢字を調べる	古典のリズムを味わう	…			
				指導時数	4	3	2	5	3				
A 話すこと・聞くこと	指導事項	話題設定や取材	ア	日常生活の中から話題を決め，話したり話し合ったりするための材料を人との交流を通して集め整理すること。	○								
		話すこと	イ	全体と部分，事実と意見との関係に注意して話を構成し，相手の反応を踏まえながら話すこと。									
			ウ	話す速度や音量，言葉の調子や間の取り方，相手に分かりやすい語句の選択，相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話すこと。	○								
		聞くこと	エ	必要に応じて質問しながら聞き取り，自分の考えとの共通点や相違点を整理すること。	○								
		話し合うこと	オ	話合いの話題や方向をとらえて的確に話したり，相手の発言を注意して聞いたりして，自分の考えをまとめること。									
	言語活動例		ア	日常生活の中の話題について報告や紹介をしたり，それらを聞いて質問や助言をしたりすること。	●								
			イ	日常生活の中の話題について討論や討論などを行うこと。									
				（上記以外の言語活動）									

（「中等教育資料」2009,6）

年間指導計画の形式としては，様々なものが考えられます。上に示したのは，横軸に単元名（教材・題材）を，縦軸に指導事項及び言語活動例を設定した形式例です。この形式を用いることにより，その単元でどのような言語活動を通してどのような言語能力を身に付けさせるのかを一覧することが可能となり，１年間の見通しをもちやすくなります。

ﾎﾟｲﾝﾄ3　「言語活動の充実」を目指した授業づくり

国語科は，各教科等における言語活動の基本を担う教科として「言語活動の充実」を目指した授業づくりをしていかなければなりません。その方法としては，付けるべき力と生徒の実態から，言語活動例を参考に，目標の実現にふさわしい言語活動を選びます。活動に流れてしまうことのないよう，この学習で何ができればよいのかを，単元全体だけでなく１時間ごとの授業においても明確にもち，生徒にも課題（ゴール）を意識させ，見通しをもたせるようにしましょう。そうすることにより，生徒たち自身が今何をすべきかが分かり，課題に対する自分の取組を振り返って，できたことや不十分であったことがわかるようになります。

取り上げようとする言語活動については，教師自身が必ず実際にやってみます。そこから，生徒のつまずく場面が予測でき，どのような手だてや支援が必要かが見えてきます。また，評価規準の作成においても有効です。同じ言語活動であっても，目的や必要によって指導の観点や支援の方法は変わってくるので，より効果のある学習活動を取り上げるようにしましょう。

ﾎﾟｲﾝﾄ4　古典に親しみをもたせる授業づくり

今回の改訂で，「読むこと」の配慮事項に示されていた古典の指導が，〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕に位置づけられたことで，他の領域と関連付けて古典を指導することが可能になっています。小学校における古典の学習も踏まえて，学年ごとの系統性に配慮しながら指導し，古典に対して抵抗感や苦手意識をもたせないようにすることが重要です。

また古典に関する教材について，古典の原文に加えて，古典の現代語訳，古典について解説した文章などを取り上げることも示されています。これは，生徒が古典に親しみをもてるようにすることをねらったものです。ねらいに応じて生徒一人ひとりが意欲をもって学習に取り組み，その意義を自覚できるような学習活動になるよう，指導事項を理解した上で，生徒の実態に合った教材や活動を取り入れましょう。

小学校との円滑な接続を図るために

(1) 生徒の学習経験を聞くことから始める。

例・「竹取物語」について知っていること。
・学習をした内容・
・面白いと思ったこと。
・もっと学習したいと思ったこと。

↓

(2) 中学校の指導事項をもとに，どのような指導が可能かを考える。

読書活動　学校図書館の計画的な利用と，その機能の活用

読書活動は，全ての教科で指導することが示されていますが，国語科における読書の指導については，目的に応じて本や文章などを選んで読んだり，それらを活用して自分の考えを形成したりすることが重視されています。また，日常的に読書に親しませるために，学校図書館などを計画的に利用し，その機能の活用を図ることが必要とされています。資料の集め方，調べ方，まとめ方などを知ったり，それらを活用して自分の考えを記述したりすることは，主体的に学習に取り組む態度を育成する上で重要です。

注意！　参考資料

● 以下のような資料を参考にして，授業づくりを考えてみましょう。

・「中学校学習指導要領解説　国語編」（平成20，９　文部科学省）
・「言語活動の充実に関する指導事例集【中学校版】」（平成23，５　文部科学省）
・「評価基準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」（平成23，７　国立教育政策研究所）

● 総合教育センターＨＰの「カリキュラムサポート」に，役立つ情報や資料があります。